

アイヌ生活文化再現マニュアル

先祖  
供養

「シヌラップ・イアレ」  
— 白老・旭川編 —





アイヌ生活文化再現マニュアル

# 先祖供養

【シンヌラッパ・イアレ】

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構



## 発刊にあたって

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構は、平成9年7月の創設以来、アイヌ文化の振興、アイヌの伝統やアイヌ文化に関する知識の普及と啓発、アイヌ文化等に関する研究の推進や助成などの各種事業を実施しております。

そうした事業の一環である「アイヌ生活文化再現マニュアル作成事業」は、アイヌの伝統文化を、映像や音声、文字などによって記録し、アイヌの人々をはじめとして、広く一般の人々や研究者の利用に供することにより、アイヌ文化の伝承・保存を図ることを目的としています。

本マニュアルがより多くの人々の利用に供され、アイヌ文化の振興が推進されるとともに、我が国の多様な文化の一層の発展が図られれば幸いです。

# 目 次

## はじめに

### シンヌラツパ【白老】財団法人アイヌ民族博物館

|                       |    |
|-----------------------|----|
| I 概 略                 | 11 |
| II 供物・用具              | 12 |
| 伝統的な料理                | 12 |
| シラリ                   | 13 |
| 水・タバコ                 | 13 |
| 現代のもの                 | 13 |
| 用 具                   | 14 |
| イナウ                   | 14 |
| III シンヌラツパヌサ（先祖供養用祭壇） | 15 |
| IV チセ                 | 16 |
| V カムイノミ               | 17 |
| 火の神への祈り詞              | 19 |
| VI 供物を捧げる             | 21 |
| VII 供物を運ぶ             | 22 |
| VIII シンヌラツパ           | 24 |
| チャラパ                  | 27 |
| IX 終了の祈り              | 29 |
| 終了を報告するカムイノミ          | 29 |
| シンヌラツパ終了の祈り           | 30 |
| X 後片づけ                | 31 |
| XI イナウをアペフチカムイに納める    | 34 |
| イナウを納める祈り詞            | 34 |

### イアレ【旭川】杉村フサ家

|           |    |
|-----------|----|
| I 概 略     | 39 |
| II チ セ    | 41 |
| III 供物・用具 | 43 |
| 供 物       | 43 |
| 用 具       | 44 |
| イナウ       | 44 |

|      |                 |    |
|------|-----------------|----|
| IV   | アペフチカムイノミ       | 45 |
|      | 着座              | 45 |
|      | カムイノミ           | 46 |
|      | 火の神への祈り詞        | 47 |
| V    | 屋外での儀礼          | 52 |
|      | アペフチカムイを移す      | 52 |
|      | フサさんの祈り詞        | 53 |
|      | チャラパ            | 54 |
| VI   | 終了の報告           | 56 |
| VII  | イナウをアペフチカムイに納める | 57 |
| VIII | 宴               | 58 |
|      | おわりに            | 60 |
|      | 参考文献            | 61 |

— 凡 例 —

- ・本マニュアルの解説編は、映像編と同様、財団法人アイヌ民族博物館が平成16年8月17日、杉村フサ家が平成16年12月24日にそれぞれ実施した先祖供養の映像記録を編集したものです。
- ・儀礼内容の文字化にあたっては、アイヌ語名称を多く使用しました。また、映像編で入れることのできなかつた解説等も記しました。したがって、映像編と文言等で一部異なる箇所があります。



## はじめに

古い時代、アイヌの人たちは、カムイモシリ（神々が住む世界）とアイヌモシリ（人間が住む世界＝現世）、ポクナシリ（死後に住む世界。地域によっていろいろな呼び方があります）と、三つの世界があり、アイヌモシリで死んだ人はポクナシリにいき、そこでアイヌモシリと変わらぬ生活をすると考えていました。

そうしたポクナシリで生活する人たち——特に親族に対して供物を送り、故人を偲ぶとともに、現世の生活が何事もなく無事に暮らせるようにと庇護を願って行ったのが、先祖供養です。北海道の多くの地域では、イチャラバ、シンヌラツパ、あるいはシヌラツパと呼ばれていますが、白老地方ではシンヌラツパ、旭川を中心とした上川地方ではイアレと呼ばれています。

現代ではお彼岸やお盆になると、供物をもって墓参りをしますが、古い時代のアイヌの人たちは墓参りはせず、自分の家の側—ヌササン（祭壇。以下「ヌサ」といいます）に向かって左側につくられた先祖供養用のヌサで供養を行いました。供養は、最初に屋内のアペフチカムイ（火の神）に祈りを捧げ、その後、女性が中心となって屋外のヌサに供物を撒く（チャラパする。そうすることにより、供物がポクナシリに届く）とともに、その場にいる人たちも供物を食べます。さらに、歌や踊りを踊って楽しみます。これは、ポクナシリにいる人たちとアイヌモシリにいる人たちがともに楽しむという考えによるものです。

こうした供養は、イオマンテやチセノミといった大きな儀礼や、春秋の農耕に関わる儀礼などに付随して行われましたが、近年では、月日を決めて行われるようにもなりました。

本マニュアルは、財団法人アイヌ民族博物館（白老町）と杉村フサ家（旭川市）で行われている先祖供養を再現したものです。



# シンヌラッパ

【白老】

財団法人アイヌ民族博物館

平成16年8月17日



# I 概 略

マニュアルに収められている財団法人アイヌ民族博物館（以下「博物館」といいます）のシンヌラッパは、平成16年8月17日に行われたものです。

博物館では、シンヌラッパは、イオマンテ（熊の霊送り）やチセノミ（新築祝い）など大きな儀式に付随して行われるとともに、毎年の決まりごととして、お盆と平成11年から始まったコタンノミ（大祭—春と秋に行われています。春は、これまでの冬の間の生活が無事であったことに感謝し、これからの季節も自然の恵みが豊かであるよう、また、無事に生活ができるよう、諸々のカムイに祈願をします。秋は、やはり、これまでの春から秋までの生活が無事であったことへの感謝と、これからの生活が無事であるよう、諸々のカムイに祈願をします）の時に行われています。



写真1

## Ⅱ 供物・用具

シンヌラッパを行うにあたり、故人に送るためのトフト（酒）や、供物、用具を用意します。



写真2

### 伝統的な料理

米やイナキビで作る団子＝シト（写真3）、汁もの＝オハウ・山菜や野菜を煮合わせたラタシケブ・イナキビや豆と一緒に炊いたチサッスイエフなど（写真4）伝統料理を用意します。

シトは必ず用意します。（イオマンテ【料理編】参照）



シト

写真3



オハウ・ラタシケブ・煮物・チサッスイエフ 写真4

## シラリ

シラリは酒を漉したときに出来る酒粕です。  
(イオマンテ【儀礼編】参照)



シラリとタバコ

写真 5

## 水・タバコ

これらも欠かすことが出来ないものとされています。タバコは刻みタバコ（写真6）の他、故人が吸っていたタバコも用意します。



刻みタバコ

写真 6

## 現代のもの

旬の果物やお菓子、ビール、お酒、ジュースなど故人が好きだったものを用意します。



写真 7

## 用 具

酒を入れるエトウヌブ（片口）、トゥキ（杯）とイクパスイ（捧酒箸）を用意します。それぞれオッチケ（膳）にのせます。

トゥキとイクパスイは各4つを1つのオッチケにのせます。（写真9）



写真8



写真9

## イナウ

アペオイ（炉）にイナウ（チェホロカケブ）を立てます。シンヌラツパが無事に行われるようお願いするアペフチカムイ（火の神）のイナウです。



写真10

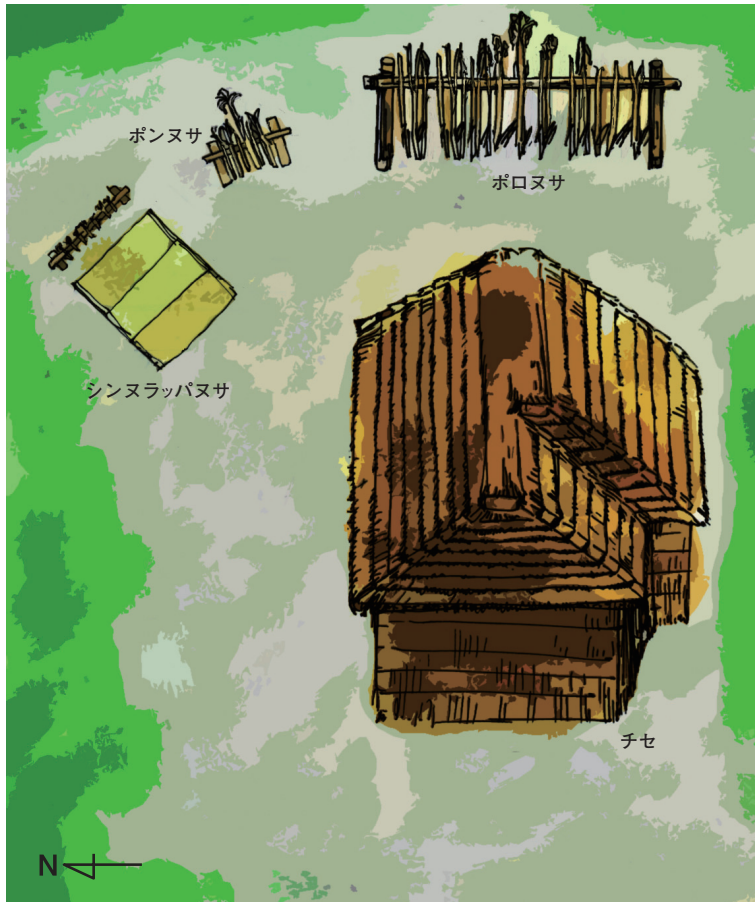
ヌサ（先祖供養用祭壇）に立てるイナウをオッチケの上に並べます。用意したイナウは6本です。



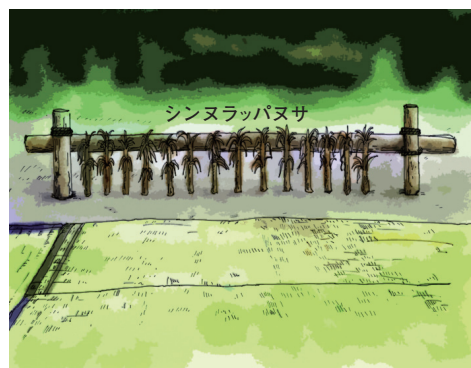
写真11

### Ⅲ シンヌラップヌサ（先祖供養用祭壇）

シンヌラップの主会場は外のボンヌサの左側にあるシンヌラップヌサです。ヌサに向かって参加者が座るキナ（ゴザ）を敷きます。



白老では、シンヌラップ用のヌサを特に設けることはなく、各戸（家）で場所を決めて行われていたといえます。博物館では、1994年に行ったイオマンテの際に、これまでシンヌラップを行っていた場所にシンヌラップ用のヌサを設けました。



## Ⅳ チセ

チセの中で参加者が座る位置は下図のようになります。祭主はロルンプヤラ（神窓）に向かって左側のシソ（右座）に座ります。

祭主はチセの主が務め、右となりにはその妻が座ります。



## V カムイノミ

祭主の合図で参列した男性がオンカミ（拝礼）をし、儀礼がはじまります。オンカミは、最初にアペフチカムイに対して行い、次にロルンピヤラのほうに向かって行い、最後にこれから使用するトゥキやイクパスイ等の用具に対して行います。



写真12

祭主はまず、アペフチカムイにこれからシンヌラッパを始めることの報告をします。

祭主にトゥキとイクパスイが渡されます。



写真13

イヨマレクル（トノトを注ぐ人。ここでは女性が務めます。）が祭主の後ろを通り、トノトが入ったエトウヌブを取って、祭主を初めとして参列した男性にトノトを注ぎます。その際、祭主や男性の右手後方から注ぎます。



写真14

イオマンテやチセノミなど、他の儀礼ではトノトは3回にわけて注ぎますが、シンヌラップでは1回で注ぎます。(写真15)

注ぎ終わるとエトウヌブはもとの場所にもどします。



写真15

祭主はトノトをアペフチカムイに捧げ、「これから先祖供養をするので、見守っててください」と祈ります。



写真16

## 火の神への祈り詞

モシリ コロ フチ パセカムイ  
チランケ ピト チランケ カムイ  
カムイ カッケマツ

タント アナクネ  
ニシパウタラ マタイヌウタラ  
ウエブソキ カネ  
タバシ シロマイナウ アシコロアシ トウラ  
オンカミアン クス ピリカノポ  
ヌ ワ イコロパレ ヤン

ナペウレアンマ イタクハイタクル  
アネブネ コロカ  
イレズフチ ピリカノポ アポロセイタク  
イコヌキワ イコレキヤン

タント アナクネ  
シンリツ イノミ エカシイノミ  
フチイノミ

ニシパ トウラノ マタイヌ トウラノ  
タネ オロワノ アキブネナ

ウ ネブネ ヤッカ ウ ピリカノポ  
シンリツウタラ ウ テクサマタ  
ウ コツチャケ タ シレパクニ  
ク ノミ シリ タパンナ

大地を掌握する、媼位の重い神  
降臨されたお方、降臨された神  
神々しい淑女よ。

本日は  
男性たちと、女性たちとともに  
列座して  
この尊い御神酒とともに  
私たちが拝礼いたしますのでよく  
聞いてください。

まだ若くて、言葉のつたない  
私ではありますが  
育ての媼、私の唱える言葉を  
お聞きになって、くださいませ。

本日は  
祖先への祈り、祖父への祈り  
祖母への祈りを

立派な方々とともに、女とともに  
これからいたしますから

何事も無事に  
先祖の人たちのそばへ  
前に届くように  
祈願いたします。

このチセは大きいため、アペオイ（炉）が2つ設けてあります。祭主はもう一方のアペオイでも同じようにアペフチカムイに対してカムイノミを行います。

祭主も捧げたトノトをいただき、隣の女性に渡します。

女性はスワツ（炉かぎ）の神や自分を守護する神などに、日々お世話になっていることの感謝と家族の安全等を祈ります。



写真17

女性もトノトをいただきます。(写真18)

祈りが終わるとトッキとイクバスイは祭主の手を通過してもとの場所にもどします。



写真18

## Ⅵ 供物を捧げる

先祖に送るため用意した供物はまず、アベフチカムイに捧げます。



刻みタバコを捧げる祭主

写真19



写真20



写真21

## Ⅶ 供物を運ぶ

供物をアペフチカムイに捧げたあと、参加者はシンヌラップヌサへ移動します。それぞれがイナウや供物を持ち、祭主を残してチセを出ます。ヌサへは玄関を出て、北回りで向かいます。





イナウを運ぶ

写真22



チセを出て供物を運ぶ

写真23

チセにはアベフチカムイとともに、留守番役として祭主が残ります。

## VIII シンヌラツパ

イナウをシンヌラツパヌサに立てていきます。

イクパスイでシラリをシンヌラツパヌサとイナウに捧げます。



写真24



写真25

供物はヌサに対して正面に並べられます。



写真26

他の地方と違って博物館のシンヌラツパヌサには火を起こしていません。



集まった人々

写真27

トノトを1回で注ぎます。



写真28

男性からトノトを送っていきます。トノトはトゥキからイクパスイですくい取るようにして送ります。



写真29

送ったトノトは自分でもいただきます。



写真30

トノトを送った後、供物をちぎってヌサに撒くように送ります。男性同様、女性もトノトを送り、チャラパします。



写真31

## チャラパ

供物をヌサの地面に撒くことを「チャラパする」といいます。それゆえ先祖供養を「イチャラパ (i-carpa = それを撒く)」ともいいます。

「ちぎる」のは、ものの魂をとくためです。そのままの形では先祖にとどかない、ちぎって魂をとくことでその魂が先祖のもとにとどくのです。



写真32

チャラパするときには自分の先祖や関係する故人の名をよび、語りかけることが大切である、とされています。

「これから用意したものをとどけますよ。受け取って皆で食べてください。遠い先祖、近い先祖、皆を集めていただいでください…。」と、心の中あるいは小さな声で唱えます。

チャラパシ、故人に送ったものは自分もいただきます。これは、あの世にいる人たちとこの世にいる人たちがともに供物を楽しむことを意味しています。

シンヌラツパヌサでの供養は1時間ほど続きました。



写真33



写真34



タバコを送る 写真35



チャラバされたタバコ

写真36

## Ⅸ 終了の祈り

シンヌラップヌサでの供養が終わると人々はチセにもどります。再び同じ場所に着座し、「終了を報告するカムイノミ」「後片づけ」を行います。

### 終了を報告するカムイノミ

儀礼の最初のとおりと同じように、祭主の合図で参列した男性がオンカミをします。

初めにアペフチカムイに対して行い、次にロルンプヤラのほうに向かって行い、最後は使用したトゥキヤイクパスイ、エトゥヌブに対して行います。



写真37

イヨマレクルがエトゥヌブを取り、祭主に右手後方よりトノトを注ぎます。



写真38

祭主はアペフチカムイとイナウにトノトを捧げます。



写真39

## シンヌラツパ終了の祈り

モシリコロフチ  
シパセフチ  
タパニ パクノ  
ピリカ シンヌラツパ  
アキ オケレ クス  
カムイコイウシテアン ナ  
ネブ タンネ イタク  
ソモ クボルセ ナ  
イヤイライケレ

国土を領する火の媼  
誠に尊い媼神よ。  
これまでの  
素晴らしい祖霊祭を  
終えましたので  
神にご報告しますよ。  
何も長い言葉は  
申しませんよ。  
ありがとうございます。

祭主の祈りが終わると、トゥキとイクパスイは隣の女性に渡され、女性はスワツのカムイや自分を守護する神に、シンヌラツパが無事に終了したことを報告し、見守ってくれたことに対し感謝します。



写真40

## X 後片づけ

終了を報告するカムイノミが終わると、後片づけが始まります。

まず参列した男性全員でオンカミしますが、この時はこれまでのオンカミと違い、最初はロルンプヤㇿのほうに向かって行い、次にアペフチカムイに対して行い、最後は使用したトゥキやイクパスイ等の用具に対して行います。



写真41

後片づけをする男性は、ロルンプヤラのほうから歩み寄り、トゥキヤイクパスイ、エトゥヌブを上座の宝物置き場の前にもどします。



片づける道具に対してオンカミをし、ロルンプヤラに背を向けたまま後ずさりしながら片づけていきます。



写真42

ロルンソ（上座）側の器類から下げられた、カムイノミチタラペ（文様入りのゴザ）もロルンソ側のものから片づけます。

※博物館で使用する文様入りのゴザをカムイノミチタラペといいます。



写真43

## XI イナウをアペフチカムイに納める

儀礼を見守ってくれたイナウをアペフチカムイに捧げます。

オンカミしてイナウを抜き、祈り詞を唱えます。



写真44

### イナウを納める祈り詞

シパセ フチ

シパセ カムイ

カムイ オイナマツ

タパン シロマイナウ

アシコロアシ トウラ

アコラ ソンコ

ピリカ ソンコ

リキンテ キ クス

ヤイライケ トウラ

カムイ ウヅソロオロケ

アコレ キ ナ

イヤイライケレ

ハエエエエ…

誠に尊い媼

誠に尊い神

神なる貴婦人よ。

この聖なる木幣（イナウ）

この聖なる御神酒とともに

私たちの伝言

良き伝言を

伝えてくれたので

感謝とともに

神の内懐へ

託しますよ。

ありがとうございます。

祈り詞を唱えた後、祭主がイナウに火をつけ、男性全員がオンカミしてイナウをアペフチカムイに納めます。



写真45

こうしてシンヌラツパが終了します。

シンヌラツパヌサにチャラパした供物やキナはそのまましておきます。翌日シンヌラツパヌサに何事もなければ、祈りや供物が無事に届いたとされ、イナウが倒れていたりすると、儀礼をやり直したといひます。



写真46

シンヌラツパは、血縁関係にある故人を供養する儀礼ですが、博物館では、設立から今日に至るまで、地元の人たちをはじめとして静内町や千歳市、平取町、弟子屈町などたくさんのアイヌの人たちの協力をいただいていることから、これらの人たちで故人となられた方々も供養の対象としています。



# イアレ

【旭川】

杉村フサ家

平成16年12月24日



# I 概 略

本編は、平成16年12月24日、旭川市錦町の杉村フサさん宅で行われた先祖供養です。

旭川地方では先祖供養を「イアレ」と呼んでいます。

杉村フサさん宅では、イアレは仏式での初七日、四十九日、一周忌、三回忌…などの折に行われるほか、故人を思い出したときにも随時行われます。

この日はフサさんのご主人でアイヌ文化の伝承・保存に携わってきた杉村満さんの命日です。

フサさんは満さんを偲び、旭川地方に伝わるやり方で先祖供養を行っています。



写真1



杉村フサさん

写真2

イアレには親族や満さんのお弟子さん、知人などが参加しました。



写真 3

この日、イアレは午前11時から行われました。男性も女性も伝統の衣装に着替えました。

他の地域などで先祖供養は夕方以降に行われるとありますが、フサさんによると昼でも夕方でも、いつでもよい、といます。



写真 4

祭主は長男の芙満郎さんですが、儀式の進行については、満さんのお弟子さんである佐藤幸夫さんに託しました。佐藤さんもまた祭主である、とフサさんはいます。



杉本芙満郎さん

写真 5



佐藤幸夫さん

写真 6

## II チセ

屋内での儀礼は自宅ではなく、満さんが作業小屋として使っていた別棟で行われました。  
ここには、アペオイ（炉）がありません。ストーブがアペオイの代わりとなります。



写真7



写真8

先祖供養のためのヌサはありません。

家の北側の地面に葉や草を敷き、そこに供物を並べてチャラパします。イナウも立てません。  
(写真9)

今回は作業小屋の横の雪山をならし、そこにチタラベ（文様入りのゴザ）を敷いて供養の場所とします。(写真10)



写真9



写真10

### Ⅲ 供物・道具



写真11

### 供物

トノト（酒）とシラリ（酒粕）、ラタシケブ（山菜や野菜をそれぞれ煮て、混ぜ合わせたもの）、シト（米やイナキビで作る団子）、果物、米、タバコ、乾物、お菓子などを用意します。

トノトは1週間前にフサさんが仕込んだものです。



写真12

米は「そちらで炊いていただいでください。」とチャラパするため用意します。  
供物は昔の食べ物と現代の食べ物、何でもかまいませんがシトは必ず用意します。

## 用具

トッキ（杯）とパスイ（捧酒箸）、エトゥヌブ（片口）、アペフチカムイ（火の神）を外に移すためにつかうアルマイトのボールを用意します。



写真13

## イナウ

アペオイがないためイナウ（チェホロカケブ）は台座にのせます。イアレが無事とり行われるように、見守ってもらうためのイナウです。

その横にはチセコロカムイ（家を守護する神）のイナウ（キケパラセイナウ）があります。

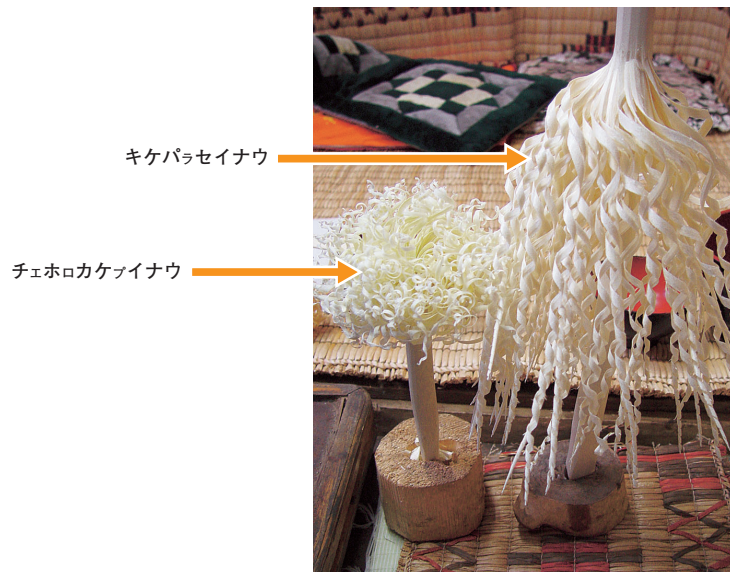


写真14

## Ⅳ アペフチカムイノミ

### 着 座

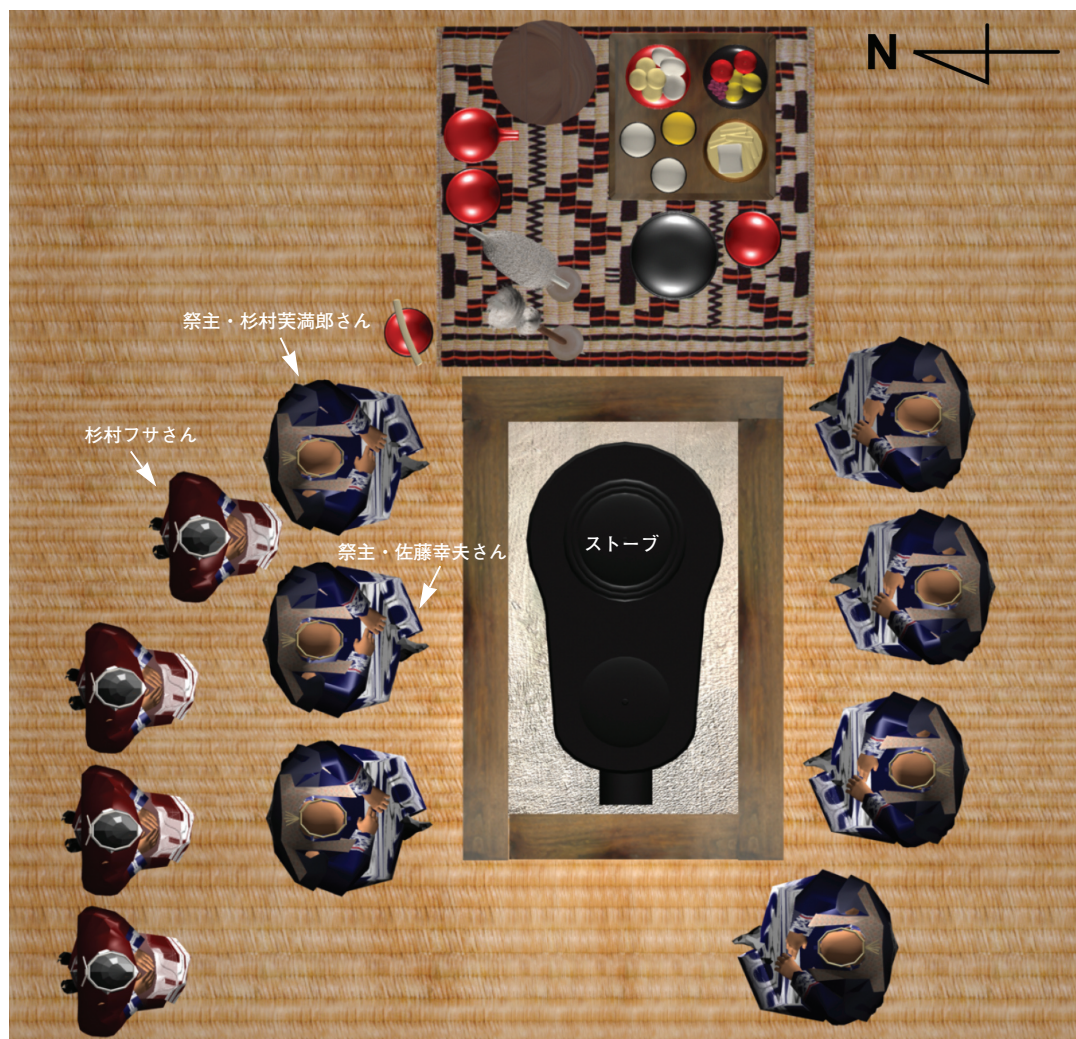
芙満郎さんのアイヌウサライエ（人わけ＝座席の指示）に従って、それぞれが着座します。

アペフチカムイ（ストーブ）の北側、ストーブに対して左から芙満郎さん、佐藤さんが着座します。

芙満郎さんと佐藤さんの後ろにフサさん、その横に親族が着座します。その他の来客は親族の向かいに位置します。



写真15



## カムイノミ

芙満郎さんからフサさんにトノトが入ったエトゥヌプが渡され、男性がオンカミ（拝礼）をして、儀礼が始まります。

フサさんが芙満郎さん、佐藤さんにトノトを注ぎます。トノトは1回で注ぎます。

エトゥヌプは他の女性に渡され、他の男性にも注ぎます。



写真16

男性はトゥキに注がれたトノトをイクパスイ（捧酒箸）で、アペフチカムイやまわりにいるカムイ、イナウに捧げます。



写真17

イナウにシラリを捧げます。



写真18

佐藤さんによるイアレを始める報告のカムイノミ  
です。



写真19

## 火の神への祈り詞

アペフチカムイ カムイフチ  
タン ヤウンモシッタ  
シノリコタン  
コタン ケスンペ  
クネブネワ  
佐藤幸夫 セコロ ネ アンペ  
クネ ル タパン ナ  
シサム サニケ  
クネ コロカイキ  
テエタ ワノ  
シサム ネ ヤッカ  
イナウ カル イネ  
カムイノミ  
キナ ネ ヤクン  
ネプ カムイエ  
ウ ネ ヤッカ  
イナウ ウク イネ  
イエブンキネ ナ  
セコロ アン ウチャシクマ  
アン ペ ネ クス

火の神 尊き姫  
このアイヌの国上  
シノリコタン  
村の端に住むものが  
私であって  
佐藤幸夫 と名のあるものが  
私であるのでございます。  
和人の血統が  
私ですが  
昔より  
和人であっても  
イナウを作って  
神への祈り  
をしたならば  
何れの神  
であっても  
イナウを受け取り  
人を守る  
というウチャシクマが  
あるものなので

エンコホサリ ワ  
クイエ ロク イタツク  
アイタ ル アン ヤッカ  
イカネイペカ  
チウエンコラムサクノ  
クイエ イタク  
イタク イツケウエ  
アパセケイトウム カシ  
ラチ オマネ ワ  
イコロパレ ヤン  
タナント オッタ  
タン チカプニ タ  
杉村フサ フチ  
コル チセ オッタ  
ウタリ ネ ヤッカ  
シランコレ ネ ヤッカ  
ウエカルパアシ ワ  
タネ タプネ  
ウ トウマシヌ ワ  
ウヌカラアシ ワ  
ウエネウサラアシ  
エアシカイ ルウエ  
カムイ ウタラ  
チコエヤイライケ  
イキ プ ネ クス  
タプネ クイノンノ  
ハウエ タパンナ  
エエパキタ  
パセ カムイ  
イレス カムイ

私の方を向いて  
私の言った言葉に  
足りないことがあっても  
決して  
悪い心持にならずに  
私が言った 言葉  
言葉の要旨を  
あなたの尊き心に  
そっと納め  
下さい。  
今日  
この近文で  
杉村フサフチ  
の家で  
身内も  
親しく付き合うものも  
集まって  
今 このように  
元気で  
会って  
話が  
できますことを  
神々に  
感謝し  
ますので  
このようにお祈り  
申し上げます。  
さても  
パセカムイ  
イレスカムイ

タン テワノ  
アシリ イナウ  
チカラ ワ チアシ  
オヤ コタン タ オカイ  
杉村満 エカシ ネワ  
イルカラ ウタラ  
シンリッ ウタリ  
杉村フサ フチ ネワ  
イレンカラ ウタラ  
シンリッ ウタリ  
シノマト  
トノト トウラノ  
タン チセ オッタ  
ウエカルパ ウタラ  
コロ ワ アンキ ロク  
ウサ ピルカブ トウラ  
イペ ピリカ イケ  
チアレ ルスイ  
ルウェ タパンナ  
タパ (供物の名前)  
ポロンノ  
ケラアンペ パテク  
オヤコタン タ  
エシエイクラ ナンコロ  
アペフチカムイ  
カムイ カッケマツト  
チアヌンコバ サクノ  
イランマカカ  
タン イペ ピリカ イケ  
オヤコタン タ

これより  
新しいイナウ  
を作りたて  
あの世にいる  
杉村満エカシ  
その身内  
の先祖たち  
杉村フサフチと  
その身内の  
先祖たちへ  
極上の  
酒とともに  
この家に  
集まった人たちが  
持って来た  
いろいろな良いものと共に  
食糧のよきものを  
あげたい  
のでございます。  
この (供物の名前)  
たくさん  
美味しいものだけ  
あの世に  
あなたが お送りくださいますよう  
火の媼神  
神の妻よ  
他人扱いなされずに  
しっかりと  
この食糧の良いものを  
あの世へ

エシ シレパレ  
ウ キ ヤクネ  
ネ ロク ウタラ  
エシコイプンパ ワ  
オソソココテ  
エネ アニヒ

アペフチカムイ  
チニスク ワ  
イペ ピリカ イケ  
エシウイナ  
ルエ ネ クス  
ウタリ オピッタ  
タポロワノ  
オルケツサック ウタラ カ  
アシケエシウク イネ  
エシウエカルパ ワ  
イクソ クルカ タ  
シネヤッキ  
リムセ ウサ  
ウエネサラ  
イランマカカ  
エシキ ナンコロ  
タポロワノ  
エフイネ  
エヤイライケ  
ケウトウム  
ヤイコロパレ  
エシキ ヤッカ  
イカネイペカ

届け  
ましたら  
かの人々に  
渡して  
言伝をするのは  
こうです。

火の媼神  
に頼んで  
食糧の良いもの  
をあなた方が 受け取っ  
たので  
一族皆  
それから  
あととりのない者たちも  
招いて  
集まって  
酒宴の席で  
一つになり  
踊りやら  
共に語り楽しみ  
良く  
するのです。  
それから  
どれほど  
感謝の  
気持ち  
を抱い  
ても  
決して

ウンコヘキル  
ナンコロ ナ  
セコロ アン ペ  
オソソココテ ワ  
イコロパレ ヤン

こちらを振り向か  
ないように  
というようなことを  
言って  
下さいませ。

アペフチカムイ  
イレスカムイ  
エシネ クス  
ネイ パクノ カ  
エシニスクアン ペ ネ クス  
タップ イノンノイタク  
ハウエ タパン タ  
ハエ・エ・エ・エ…

火の媪神  
育ての神が  
あなたですので  
いつでも  
あなたに依り 頼むものだから  
こう祈り言葉を  
申し上げますのでございます。

カムイノミが終わると全員でトノトをいただきます。  
男性がいただき、その後女性にトゥキが渡され、女性もいただきます。  
トノトは空にしなくてははいけません。残してしまうと祈ったことがカムイに伝わらないとされているからです。



写真20

供物はアペフチカムイに捧げず、イアレの場に持っていきます。

## V 屋外での儀礼

### アペフチカムイを移す

ストーブからアペフチカムイをアルマイトのボールに移し、屋外に運びます。これは屋外で儀礼を行うにあたり、アペフチカムイに見守ってもらうためです。



写真21

屋外でのチャラパに男女の順番はありません。女性が先でも男性が先でもよいのです。



写真22

フサさんがトノトを送り、イアレをします。ご主人に対して祈り詞を唱えます。このとき他の女性も一緒にトノトを送ります。



写真23

## フサさんの祈り詞

タバシ トツタ  
ウタラ インネ イアレ クニ  
クコロ オクフ 満  
エコタ イアレ クニ  
フシコ エカシ フチ エコロ  
ハンベ エコロ トット  
エコタ ウサ イモカ ポロンノ  
エコロオマン クニネ  
オカイ アイヌ ウタラ ピリカ  
エプンキネ クニネ  
エチッキ シオカイネ エチッキ インカラ  
エオマン クニネ  
チオカイ アナック アヌン チネナ  
タネ イサムクル エコタ  
エコロオマン クニネ  
ミンダラ フチ カムイフチ  
イランマカカ エイツラ クニネ  
エサンニヨ ハウエ  
イヤイライケレ

今日 ここにいる  
たくさんの人たちに捧げます。  
私の夫 満  
その所に 捧げます。  
先祖 おじさん おばあさん  
あなたの父、母、  
その所に 色々なお土産をたくさん  
あなたが持って行くように  
暮らす人達 よく  
お守りしてください。  
決して 後ろを 見ては いけません。  
あなたが 行ってしまったように  
私たちとは 別なのです。  
今 いない人に その所に  
あなたの物を持って行くように  
庭のおばあさま 神のおばあさま  
よくしっかりと 導いてくださるよう  
おとりはからい 下さい。  
ありがとう ございます。

## チャラパ

祈りが終わると供物をチャラパします。



写真24

チャラパする供物は故人とわかちあうため、自分もいただきます。

他の女性も同じく祈り、チャラパします。送る相手は最初に故人である満さんに、そして自分の亡くなった家族や先祖に対して行います。

祭主である芙満郎さん、佐藤幸夫さんがチャラバするため外に出てきました。

フサさんたち同様に酒を送り、チャラバします。



写真25



写真26



写真27

チャラバし終わると作業小屋にもどります。もどる時は振り返らないようにします。  
残った供物のうち、持って行きたいと思うものは屋内へ運び、あとはそのままにしておきます。

なお、外での供養は一人で行ってはいけない、といわれています。

## Ⅵ 終了の報告

男性がオンカミし、女性の手でトノトが注がれます。(1回で注ぎます)



写真28

イアレが無事終了したことをアベフチカムイへ報告し、見守ってくれたことに対する感謝のカムイノミを行います。



写真29

## Ⅶ イナウをアペフチカムイに納める

祭主がイナウ（チェホロカケイナウ）をアペフチカムイに捧げ、儀礼は終了します。



写真30

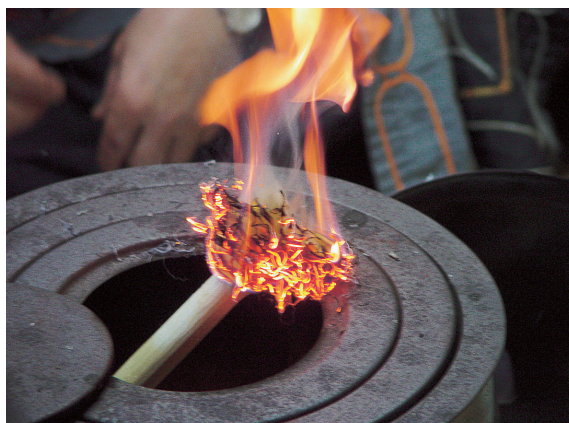


写真31

## VII 宴

イアレが終わった後、しばらく男性は故人を偲びながら作業小屋にとどまっていた。

自宅の方では、親族や来客が昼食をとりながら、近況や思い出話に花を咲かせます。

イアレは、普段なかなか集まることの出来ない親族と語りあい、同じ時を過ごすことも大切な目的のひとつです。



写真32

チャラパした供物はそのままにしておきます。

今日では翌日などに片づけますが、昔は「チャラパした供物を犬や鳥が食べることで、先祖と一緒に食べる」とされていたからだろう、といえます。



写真33

フサさんによると、イアレでの供物は親族以外の故人を対象としても与えられます。

これは「供物を貰えない仏さん（＝子孫のいない無縁仏）がたくさんいて、欲しい欲しいと見ているので」、彼らに対しても施していこうということです。

## おわりに

アイヌ文化は画一的なものではなく地域性があり、それぞれに特徴をもっています。このマニュアルでは、アイヌ民族博物館と杉村フサさんの協力を得て、白老地方及び旭川地方で行われている先祖供養を再現しました。さらに、その地域性を踏まえて、アイヌ民族博物館には、職場での儀礼、杉村フサさんには個人の「家」での儀礼をそれぞれ再現していただきました。

明治以降、アイヌの人たちを取り巻く環境が大きく変化し、アイヌの人たちも仏教や神道、あるいはキリスト教といった外来の宗教を信仰するようになりましたが、伝統的な信仰観は脈々と受け継がれて今日に至っています。現在、北海道内各地で行われているアイヌの人たちの祭事では、必ず先祖供養が執り行われています。

## 参 考 文 献

先祖供養の実施にあたって、参考となる文献をいくつか紹介します。

### ●久保寺逸彦

- 1952：「沙流アイヌの祖霊祭祀」『民族学研究』16-3・4 日本民族学協会  
(2001：『アイヌ民族の宗教と儀礼』久保寺逸彦著作集1 草風館 所収)  
1969：「アイヌの祖霊祭り（シヌラッパ）」『アイヌ民族誌』下 第一法規出版株式会社  
——：「アイヌのシヌラッパ（祖霊供養）の概要」『北海道の文化』17 北海道文化財保護協会

### ●財団法人アイヌ民族博物館監修

- 1993：「神々とひとびと」『アイヌ文化の基礎知識』草風館

### ●財団法人アイヌ民族博物館編

- 1990：「Ⅵ. 祖霊祭 —シヌラッパ—」『イヨマンテ —熊の霊送り— 報告書 —日川善次郎翁の  
伝承にもとづく実施報告—』財団法人アイヌ民族博物館（2003：『イヨマンテ —日川善次郎  
翁の伝承による—』伝承事業報告書2 財団法人アイヌ民族博物館所収）  
1991：「Ⅴ-2. シヌラッパ」『イヨマンテ —熊の霊送り— 報告書Ⅱ —平成2年2月におこなった  
イヨマンテの実施報告—』財団法人アイヌ民族博物館（2003：『イヨマンテ —日川善次郎翁  
の伝承による—』伝承事業報告書2 財団法人アイヌ民族博物館所収）  
1994：「1. 信仰」『山川 弘の伝承』アイヌ民族博物館伝承記録 財団法人アイヌ民族博物館  
2000：「Ⅵ-5 後祭1／祖霊祭」『ポロチセの建築儀礼』伝承事業報告書 財団法人アイヌ民族博物館

### ●N.G.マンロー（小松哲郎訳）

- 2002 [1962]：「第八章 シヌラッパ（靈魂供養・祖霊祭）」『アイヌの信仰とその儀式』国書刊行会

### ●萩中美枝、畑井朝子、藤村久和、古原敏弘、村木美幸

- 1992：「(2) 十二月のイチャルパと豊作感謝のカムイノミ」『聞き書 アイヌの食事』日本の食生活全  
集48 社団法人農山漁村文化協会

### ●北海道教育庁社会教育部文化課編

- 1984：「7-6-6. イチャルパ（先祖供養）」『昭和58年度 アイヌ民俗文化財調査報告書』アイヌ民俗調  
査Ⅲ 静内地方 北海道教育委員会  
1989：「6-5-7. イチャルパ（先祖供養）」「6-5-6. イチャルパ（先祖供養）」『昭和63年度 アイヌ民  
俗文化財調査報告書』アイヌ民俗調査Ⅷ 鶴川・有珠地方 北海道教育委員会

### ●北海道教育庁生涯学習部文化課編

- 1993：「6-5-6. 葬礼と先祖供養」『平成5年度 アイヌ民俗文化財調査報告書』アイヌ民俗調査Ⅷ  
北海道教育委員会  
1995：「6-5-6. 葬礼と先祖供養」（Ⅱ. 貫気別編）「6-5-6. 葬礼と先祖供養」（Ⅲ. 十勝編）『平成7  
年度 アイヌ民俗文化財調査報告書』アイヌ民俗調査ⅩⅤ 補足調査2 北海道教育委員会  
1996：「6-5-6. 葬礼と先祖供養」（Ⅱ. 十勝編）『平成8年度 アイヌ民俗文化財調査報告書』アイヌ  
民俗調査ⅩⅥ 補足調査3 北海道教育委員会  
1998：「6-5-7. 死生観」『平成10年度 アイヌ民俗文化財調査報告書』アイヌ民俗調査ⅩⅧ 補足調  
査5 北海道教育委員会

### ●満岡伸一

- 2003 [1924]：「カムイノミとシヌラッパ」『アイヌの足跡』9版増補 財団法人アイヌ民族博物館

### ●百瀬 響

- 1993：「旭川近文地方の祖霊祭祀 —3家族の事例にみるその継承と変容—」『アイヌ文化』18 財団  
法人アイヌ無形文化伝承保存会



アイヌ生活文化再現マニュアル  
先祖供養  
【シンヌラツパ・イアレ】

---

2006年3月 発行

発行 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

〒060-0001

北海道札幌市中央区北1条西7丁目

プレスト1・7 (7階)

TEL (011) 271-4171 / FAX (011) 271-4181

本書の内容の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、法律で禁止されていますので、あらかじめ財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構あてに許諾をお求めください。

